

## 会員便り

### 「第53回全国ホタル研究会 京都大会」を終えて

第53回全国ホタル研究会  
京都大会実行委員会事務局 西野 伸

2022年6月3日から6月5日の3日間、京都市ルビノ京都堀川を会場として第53回全国ホタル研究会京都大会を開催いたしました。全国各地から会員の他、地元・関係者含め、90名近くの参加の皆様のお力添えにより、なんとか無事に大会を終えることができました。

第52回久米島大会が終わってから、さあ～次は京都大会だ…と張り切っていたのが、新型コロナ、コロナ禍で2年延期になり、足掛け3年待たされました。

今年延期になれば、京都はGIVE UPしていたと思います。

今となれば、第53回京都大会が無事終わり、安堵の気持ちでいっぱいです。

開催前に案内状を回収したら80数名の方々が全国から参加するとの返事があり、“京都を楽しみにしています”“夫婦で参加します”“開催後の嵐山はどうですか？”という京都に期待する返事が返ってきました。

これはしっかりと計画を練って開催しなければならぬと実行委員で検討しました。

おかげさまで本部並びに京都の会員の方々のご協力により予定通り開催出来ました。

又、問題の開催に要する経費は公共機関からの応援はなく、すべて会で集めました。会員の方々の応援には大変に感謝しています。

“とにかく疲れた!!”が第一感想です。そして開催出来て“よかった!!”が第二感想です。

そして又、今後この「全国ホタル研究会」が益々ご発展する事をお祈りしています。



研究会発表会場（2022年6月3日）



高校生による発表（2022年6月4日）

# 第53回全国ホテル研究会大会報告

## 1. 研究大会の概要

### (1) 概要

全国ホテル研究会の第53回大会が令和4（2022）年6月3日～5日の3日間、京都府京都市にて開催され、まだ収まらぬコロナ禍のなか、全国各地から90名近くの方々のご参加をいただき、盛大な会でした。全国ホテル研究会は、2年間の延期を受けて3年ぶりの大会でした。

主催：全国ホテル研究会

主管：第53回全国ホテル研究会京都大会実行委員会

後援：環境省、京都府、京都市

協力：株式会社京都銀行、宝ホールディングス株式会社、南禅寺「順正」、  
がんこフードサービス株式会社、京都ホテルオークラ株式会社、青雲会、  
株式会社吉川組、出町商店街、嵯峨自治連合会、福井修一郎、高屋素明、  
高雄保勝会、京洛ライオンズクラブ、京都洛北ロータリークラブ、  
京都中ロータリークラブ、有栖川を考える会、清滝ゲンジボタル保存会

### 6月3日（金）

午後1時より会場であるルビノ京都堀川みやこの間の入り口にて受付が始まりました。コロナウイルス感染症対策のため、受付では検温、手指の消毒をお願いし、会場内も間隔をあけて着席していただきました。

午後2時から、西野伸大会実行委員長の挨拶、小田宏一様（京都市河川防災担当部長）からの祝辞のあと、幸野理乃会員が京都市内におけるホテルの発生状況および保護保全の実態を紹介し、続いて八木透様（京都佛教大学歴史学部教授）から祇園祭りなどの京都の祭りと水・川信仰との興味深いお話をいただきました。

夕方の時間を利用してそれぞれ短時間でしたが、各地からのホテルに関する報告をいただきました（詳細後述）。

夕食（弁当）のあと、7時半に研究会会場からバスにて出発し、丸太町通から御池通の間の木屋町通りや鴨川沿いのゲンジボタル発生地を鑑賞しました。参加者の方々には、京の繁華街の脇でホテルが飛び交う不思議な、しかし京都らしい情景に触れていただきました。

### 6月4日（土）

第53回全国ホテル研究会京都大会の研究発表の部が開催されました。遊磨会長の主催者挨拶に続いて、午前には2題の研究発表と、ホテル関連の話題紹介が行われました。

午後はさらに4題の研究発表が行われました。うち一つの発表は、熊本県から参加して下さった女子高校生によるすばらしい発表でした。また、夕方の時間を利用してそれぞれ短時間ながら前日に続いて、各地からのホテルに関する報告をいただきました（詳細後述）。

総会では、研究会の事業報告や会計報告が審議されましたが、残念ながら次回の以降の大会開催地の候補がなく、事務局側で模索することになりました。

交流会では間隔をあけての着席をお願いし、会話も控えめにさせていただきました。それでも乾杯のあとに会場に来ていただいた舞妓さんからの唄と踊りに京都らしさを堪能いただき、舞妓さんとの談笑も楽しんでいただけたようでした。ただし、次回の開催地が決まっていなかったため、大会旗は事務局に返還し、預かっていただくことになりました。

## 6月5日（日）

参加者の方にはそれぞれにホテル発生地等の視察を行っていただきました。

## （2）会場

6月3日（金）、4日（土）京都市 ルビノ京都堀川 みやこの間

## （3）大会日程

### 6月3日（金）

13:55～ 開催

13:00～ 参加者受付

14:00～ 西野伸大会実行委員長挨拶

小田宏一氏（京都市河川防災担当部長）祝辞

14:15～ 幸野理乃（京都府）「京都のホテルまちなかをとぶ」

15:30～ 特別講演：八木透氏（京都佛教大学歴史学部教授）

「祇園祭と川神信仰」

16:45～ 各地からの報告（4題）

17:15～ 鑑賞会の案内

17:30～ 夕食（弁当）

19:30～ 観賞会へ出発

20:00～ 鴨川沿いの、みそそぎ川、木屋町通高瀬川にてホテル鑑賞

### 6月4日（土）

10:00～ 遊磨正秀全国ホテル研究会会長挨拶

10:10～ 佐々木潤夫（京都府）

「ゲンジボタル幼虫とカワニナ－摂餌に際しての関係逆転－」

10:50～ 草桶秀夫、女川博美、宮原真樹、米沢正美、三田村佳政（福井県）

- 「小型と大型ヒメボタルの生息分布と遺伝的特性」
- 11:30～ 遊磨正秀（京都府）「ホタル関連の報告」
- ・クメジマボタルのIUCNレッドリスト掲載
  - ・大阪府島本町－3種のホタルの保全
  - ・五島列島の1秒型ゲンジボタル
- 12:00～ 昼食休憩、研究会役員会
- 13:00～ 倉田玲美、松崎惺来、宮崎一（熊本県）
- 「天草に生息するゲンジボタルの発光周期について」
- 13:40～ 井口豊（長野県）
- 「群馬県富岡市のゲンジボタル発光パターンのビデオ画像解析」
- 14:20～ 休憩
- 14:35～ 遊磨正秀（滋賀県）
- 「ゲンジボタル成虫発生量の増減に対する降雨強度の影響」
- 15:05～ 守山ホタルの会（滋賀県）「ビデオによる紹介」
- 15:25～ 各地からの報告（8題）
- 16:00～ 全国ホタル研究会総会
- 18:00～ 交流会、大会旗返還

#### （4）各地からの報告（概要，テープ起こしから）

##### 6月3日（金）16:45～

##### ○ 下田城二・菅谷昌司（静岡県）静岡県の近況

（下田）ホタルの大切さを県民の方にも知っていただきたい。沼津で活躍されていた大竹和夫さんから都市化や農薬でホタルが減っていると聞いて関心をもった。仕事の関係で防水シートを用いたせせらぎづくりもしているが、大場先生からホタルのことも考えて、せせらぎには4つのゾーン（流れる、よどむ、走る、落ちる）が必要と教えられた。

（菅谷）2015年に川根本町で全国大会を開催した折にはお世話になりました。県内各市町にはホタルが見られる場所が多くあり、地元の方が環境と自然を大切にされている。活動拠点では、地域、学校、行政が協力している。一方、昔はいたるところにいたヘイケボタルは、今はまとまって観察できる場所が少ない。保全のために昔ながらの田園風景の再現しているところもある。また、県内にはゲンジボタルの東日本型、西日本型、両者の混在、中間型など、多彩な集団の生息がみられる。これからも保全の努力をしていきたい。

##### ○ 磯部貴文（山口県）山口県山口市のホタルの近況

山口市のゲンジボタルは市全域のものが昭和10年に天然記念物に指定され、以来発生が続いている。市は盆地で、どこにでもホタルがいて、西日が当たるところや用水の流末では5月中旬から、山間部では6月下旬まで成虫が見られる。山口では一の坂川が有名で、1kmほどの間に今年も1000匹ほど発生したようだ。一方、山口駅のすぐ裏にもいて、ここは十数年

に1回浚渫をし、浚渫後5年くらいでホタルがよく出るようになる。自分は、こういった天然記念物生息地の現状変更の許認可をする部署にいたが、ホタルは人里昆虫なので、大規模な浚渫のような手入れが必要なのもかもしれないと思う。

○ 大場詔子（神奈川県）ソレイユの丘のホタルの近況

大会には北海道恵庭大会から主人と一緒に参加。主人（大場信義）は2020年に亡くなったが、多くの方にお世話になってきたこと、お礼申し上げます。さて、ソレイユの丘は横須賀市の公園で、入園は無料。標高30mくらいで、平成17年にビオトープの一環としてホタル水路（180m長、高低差5m）を造成した。水路には地下水をポンプアップして循環させていて、冬も水温が18-19度、夏でも20度ほどと一定である。ここにヘイケボタルを放流して、3-4年後に自然発生するようになって、放流は止めた。カワニナも自然発生でよく育っている。鑑賞に来る人も多く、みんなに喜んでいただけるよう、草刈りなどの環境整備を続けている。

○ 原田ちよ子（愛知県）碧南市のホタルの近況

徳島県美郷大会から参加している。碧南市は平野で山がなく、市内の油ヶ淵はきれいで自然生態系に恵まれた場所で、周辺も含めヘイケボタルが住んでいた。しかし周辺も水質汚濁が進み、ホタルの自然発生が難しくなった。ゴミ拾いや水質浄化のための草刈りなどの環境保全をすすめながら、ヘイケボタルの人工飼育を続けている。子どもたちにもみてもらいたいので、小学校などでホタルの話をしたり、学校ビオトープに放流したりもしてきた。子どもたちから励ましの手紙をもらうとうれしい。油ヶ淵では花しょうぶの時期に一般開放があって、ちょうどホタルの発生時期でもあるので一緒に楽しんでもらいたいと努力を続けている。

6月4日（土）15:25～

○ 蔭島章（富山県）越の火垂ん

富山県ホタルの会を立ち上げて9年たった。会では機関紙「越の火垂ん」を毎年発刊している。以前、草桶さんから富山にヒメボタルの記録がないと聞き、一緒に3年間調べた結果、大型ヒメボタルの生息が確認できた。このことも機関紙に掲載している。一方、高岡市中田地区では成虫の発生が以前は6月20日頃だったのが6月10日前後と10日ほど早くなり、初見も5月下旬で4日ほど早くなっている。温暖化の影響ではないかと心配している。

○ 千葉豊（岐阜県）飛翔写真集

天然ものや養殖もののホタルのさまざまな飛翔の写真から自慢のものを紹介します。さらにホタルの養殖場の写真も紹介します。

○ 中田みどり（大阪府）大阪府島本町のホタルの近況

大阪府島本町は京都と大阪の間の緑豊かな場所。狭い市街地に3万人が住むという人口密集地であるが、そこにホタル3種が住んでいる。ゲンジボタルは、市街地の近くの川に多く生息している。そこにはかつて放流していたが、今は自然発生で増えている。その川で浚渫があつて心配したが、ホタルに配慮して濬筋を残すなどで、河川環境はなんとかなっている。

ところが光が問題で、新たについた街灯からの光が川の方に向いていて、明るいホタルが飛ばなくなったので、対応を考えているところ。ヒメボタルは数か所にいたが、生息地が開発で減少。街灯の影響を受けているところもある。幸い、最後に近い生息地では、造成業者側がヒメボタル成虫発生のカメラモニタリングをしてくれ、いろいろな対応に協力してくれているので期待している。ヘイケボタルは住宅地のど真ん中において、よくこんなところにいるもんだと思えるほど。住宅地なので今後が心配である。行政がとんでもない対応をすると困るので、皆さんの知恵を貸してほしい。

○ 梶岡幹生（広島県）広島県のホタルの現状と問題点

広島県では各地でホタル祭りを行っている。ただ、若い人がなかなか関心をもってくれず、世話をする方々が高齢化している。こここのところはコロナ禍でイベントができないので、高齢者施設でホタルの紙芝居をやっている。紙芝居では子どもたちはなかなか興味を持ってもらえないが、施設の職員の方にいろいろなホタルの話をしてもらい、また水槽に入れたホタルの光を楽しんでもらうなど工夫をし、高齢者の方には喜んでもらっている。紙芝居の筋のように、最後には子どもたちが一緒になって、ホタルの里の再生ができることを願っている。

○ 佐々木健志（沖縄県）西表島の子どもたちとのイリオモテボタルの生息調査

西表島の子どもたちが2011年から、環境省モニタリング1000事業として調査を続けている。イリオモテボタル成虫は11月後半から1月に出現し、雌は石垣の間で産卵・抱卵する。幼虫はヤスデを餌にしている。主に高学年小学生が午後7時半から8時半に石垣で発光している雌を数える。2018年までは100匹以上を確認したが、2020年からは減少。その減少が一時的なものなのかどうか心配である。生息地は里に近いところで、今まで無かった街灯が設置されたせいか、通常午後7時半くらいに雌が石垣の表に出て発光して雄を誘引するが、午後11時になっても発光を続ける個体も出てきた。また、道路がアスファルト舗装され、壁もブロック化されてヤスデも住みづらくなった。このような影響も考えながら調査を続けている。

ところで、沖縄本島では八重山諸島からヤエヤママドボタルが人為的に持ち込まれ、爆発的に増えている。幼虫は陸貝を食べ、同じく外来のアフリカマイマイも食べているが、ヤマタカマイマイなどの在来の希少種が食べられて激減しており、ヤエヤママドボタルの駆除が進められている。

○ 山城勇人・佐藤文保（沖縄県）久米島のホタルの近況

（山城）2019年の久米島大会には皆様に参加いただき、当時の事務局を代表してお礼も申し上げます。

（佐藤）久米島大会開催にあたって尽力してくださった宇江城洋一さんが、ご本人の漁師になりたいという希望のなか、水難にあわれて亡くなりました。とても残念です。1993年にクメジマボタルの生息が明らかになって、その後2000年に、久米島ホタル館が開設されました。ここ2年はコロナ禍で休館していましたが、今年になって幼稚園児や小学校低学年生を中心に川の調査をするなど、ホタル館の活動を再開しました。

○ 藤井徹也（大阪府）大阪府の近況

大阪市西成区で、人工飼育した幼虫を、小学校や幼稚園に配って楽しんでもらっている。タッパで簡単に飼えるが、問題は餌。身近なものとしてスーパーで買えるカニカマボコやしじみ貝も使っている。飼っているヘイケボタルは、雑食性が強いようだ。この私の活動はTVでも紹介された。

○ 兼岡弘志（京都府）アラカルト

長崎県五島列島福江島の1秒型のゲンジボタルの発光の動画を紹介。

京都の山間部でもけっこういるので、京都の方々も街の周辺だけでなく山間部も調査していただきたい。また、ホタルには暗いところが重要という話があった。京都の清滝の上流、高尾では旅館からホタルを楽しめるところもあるが、LED灯が明るい。写真に写っている直線的な光跡は雌かもしれない。その雌は産卵場所を探してかなり上流まで移動するので、途中で街灯などがあると障害になる。それもしても、清滝は部屋の椅子に座ってホタルを鑑賞できるすばらしいところだった。



交流会を和ませてくれた舞妓さんたち（2022年6月4日）



大会旗の返還（2022年6月4日）



各地からの報告



特別講演